

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第37週 (9/9-9/15) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		37週	36週	35週	34週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	16	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	26	26	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	9/9-9/15	9/2-9/8	8/26-9/1	8/19-8/25	9/2-9/8
			37週	36週	35週	34週	36週
小児科	RSウイルス感染症		17 0.94	29 1.81	25 1.39	20 1.11	281 2.18
	咽頭結膜熱		4 0.22	11 0.69	13 0.72	1 0.06	28 0.22
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		23 1.28	29 1.81	27 1.50	22 1.22	251 1.95
	感染性胃腸炎		67 3.72	62 3.88	49 2.72	52 2.89	388 3.01
	水痘		2 0.11	4 0.25	2 0.11	3 0.17	36 0.28
	手足口病		62 3.44	67 4.19	47 2.61	61 3.39	366 2.84
	伝染性紅斑		6 0.33	7 0.44	7 0.39	6 0.33	89 0.69
	突発性発しん		12 0.67	9 0.56	8 0.44	14 0.78	68 0.53
	ヘルパンギーナ	○	33 1.83	22 1.38	16 0.89	12 0.67	128 0.99
	流行性耳下腺炎		1 0.06	1 0.06	0 0.00	2 0.11	10 0.08
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○	44 1.69	32 1.23	2 0.07	3 0.11	171 0.83
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		4 0.80	13 2.60	9 1.80	8 1.60	39 1.18
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(9件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	90歳代	IGRA検査	急性脳炎	女性	10歳代	中枢神経症状
結核	女性	70歳代	病原体等の検出等	後天性免疫不全症候群	女性	60歳代	血清抗体の検出
腸管出血性 大腸菌感染症	女性	20歳代	病原体の分離・同定 及びベロ毒素の確認	百日咳	女性	40歳代	抗体の検出
				百日咳	女性	70歳代	病原体遺伝子の検出
A型肝炎	男性	20歳代	血清IgM抗体の検出	風しん	女性	20歳代	病原体遺伝子の検出

・第37週は、結核2件(132)、腸管出血性大腸菌感染症1件(13)、A型肝炎1件(5)、急性脳炎1件(11)、後天性免疫不全症候群1件(6)、百日咳2件(117)、風しん1件(45)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

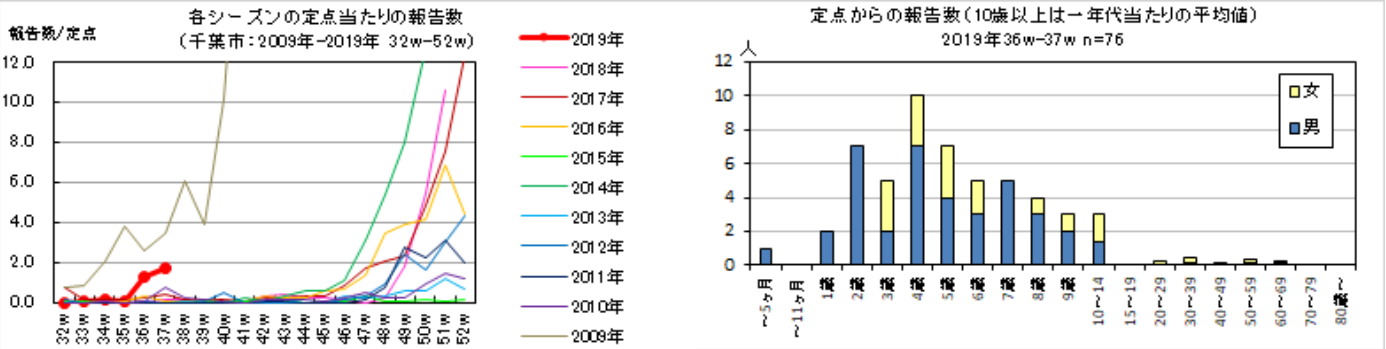
定点当たり報告数 第37週のコメント

＜インフルエンザ＞前週より増加し1.69となった。過去10年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除いて最多。
＜ヘルパンギーナ＞第34週から連続して増加しており、1.83となった。過去10年の同時期と比べると多い。

トピック

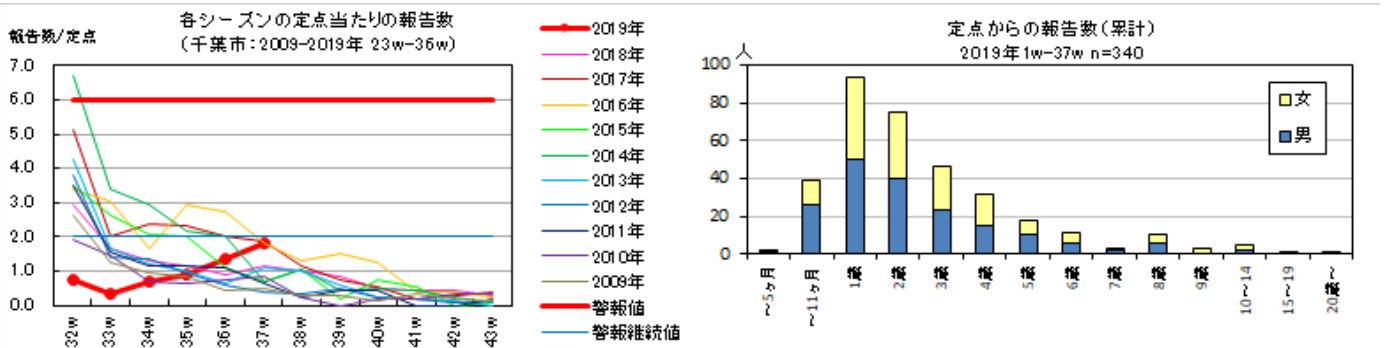
＜インフルエンザ＞

全国レベルの第36週の定点当たりの報告数は0.77で、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では沖縄県、宮崎県、千葉県順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.83で、全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の第37週は前週より更に増加し1.69となりました。過去10年の同時期と比べると、2009年のパンデミックを除いて最多のままとされています。区別の発生状況は、若葉区(4.33/定点)で最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2019年第36週から第37週までの報告数は76件で、性別では男性が60.5%(46名)、女性が39.5%(30名)となっており、年齢階級別では4歳(13.2%:10名)、2歳及び5歳(共に9.2%:7名)の順で多く、20歳未満は全体の84.2%、10歳未満は64.5%となっています。



＜ヘルパンギーナ＞

全国レベルの第36週の定点当たりの報告数は1.28となり、過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。都道府県別では大分県、宮崎県、鹿児島県順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.99で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市では例年の発生動向とは逆の動きとなり、第34週から連続して増加しており第37週は1.83となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(4.33/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第37週までの累積報告数は340件で、性別では男性が53.5%(182名)、女性が46.5%(158名)となっており、年齢階級別では1歳(27.6%:94名)、2歳(22.1%:75名)、3歳(13.5%:46名)の順で多くなっています。



＜風しん＞

全国レベルの第36週の累積届出数は2176件で、昨年の同時期と比べておよそ4.4倍となっています。都道府県別では東京都、神奈川県、千葉県順で多く、関東地方で多くなっています。千葉市では第37週に1件の発生届があり、2019年の累積報告数は45件となりました。性別では男性が75.6%(34名)、女性が24.4%(11名)となっており、年齢階級別では30歳代及び40歳代(共に31.1%:14名)、20歳代(17.8%:8名)の順で多く、30歳代～40歳代の男性が中心となっています。ワクチン接種歴は、無し又は不明が全体の8割を占めています。

